

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成19年1月25日(2007.1.25)

【公開番号】特開2002-60536(P2002-60536A)

【公開日】平成14年2月26日(2002.2.26)

【出願番号】特願2000-250882(P2000-250882)

【国際特許分類】

C 0 8 J 11/08 (2006.01)

C 0 7 C 27/00 (2006.01)

C 0 7 C 27/02 (2006.01)

C 0 7 C 31/20 (2006.01)

C 0 7 C 67/28 (2006.01)

C 0 7 C 69/82 (2006.01)

C 0 8 J 11/16 (2006.01)

C 0 8 L 67/03 (2006.01)

C 0 8 L 77/00 (2006.01)

【F I】

C 0 8 J 11/08

C 0 7 C 27/00

C 0 7 C 27/02

C 0 7 C 31/20

C 0 7 C 67/28

C 0 7 C 69/82 A

C 0 8 J 11/16

C 0 8 L 67:03

C 0 8 L 77:00

【手続補正書】

【提出日】平成18年11月15日(2006.11.15)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0026

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0026】

該エステル交換反応はポリエステル廃棄物を基準として、MeOHを150～400重量%投入し、同時にエステル交換触媒をポリエステル廃棄物を基準として0.3～10重量%投入する。エステル交換反応系内の圧力は大気圧下近傍、反応温度は65～85で反応を進行させればよい。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0028

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0028】

なお、DMTから固液分離したアルキレングリコールとMeOHとの混合液は、溶解したDMT、解重合触媒及びエステル交換触媒を含有しており、アルキレングリコール、MeOHは再度プロセスで使用するため各々に分離精製する。該分離精製操作は、蒸留操作に限定する必要はないが、蒸留により行う場合には、沸点の低いMeOHを最初に留去し

、塔底に残る液を次の蒸留塔に供給しアルキレングリコールを留去し釜残は廃棄する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0035

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0035】

この濃縮液にエステル交換触媒として炭酸ソーダ0.5部とMeOH100部を投入した。常圧で液温を75℃、撹拌100rpmの状態を1時間保持し、エステル交換反応を実施した。